

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度発生予察技術情報第3号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成21年度技術情報第3号

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）の誘殺数が5月第3半旬に薩摩川内市東郷町で増加し、一部の地域で果樹園への飛来が確認された。今後、気温の上昇にともない、果樹園へ飛来し、吸汁加害する恐れがあるので、注意が必要である。

1 対象作物 ナシ、ブドウ、ウメ、モモ、ビワ、ハウスマカン等

2 情報の根拠

- （1）カメムシ類の予察灯への誘殺数が増加し、薩摩川内市東郷町で5月第3半旬にチャバネアオカメムシが282頭（平年10頭）、ツヤアオカメムシが43頭（平年4頭）誘殺された（表1）。
- （2）一部の地域で露地栽培のカンキツ、ナシ、ブドウ園への飛来が認められた。
- （3）秋に発生が多かった場合は翌年春期の誘殺数は多い傾向にある。昨年9～10月の誘殺数は、薩摩川内市東郷町では、平年に比べて約10倍と多かったことから、今後スギ・ヒノキへ移動するまで越冬成虫の飛来が多くなる可能性が高い。
- （4）チャバネアオカメムシの越冬量は0.21頭/m²（前年0.08頭/m²、平年0.18頭/m²）で前年よりも多かった（図1）。
- （5）ツヤアオカメムシのイヌマキ樹冠内での越冬量は、いちき串木野市、薩摩川内市、さつま町および出水市で前年より多い傾向であった（図2）。

3 防除上注意すべき事項

- （1）カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるので、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。収穫期の近い樹種では特に注意する。
- （2）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類やカイガラムシ類の発生を助長するので連用を避け、ネオニコチノイド系薬剤と交互に使用する。
- （3）チャバネアオカメムシの被害の多いほ場では、黄色蛍光灯（波長500～600nm）を集団点灯すると飛来防止効果が高い。
- （4）果実への袋かけや目合い4mネットの防虫網を被覆することで被害の軽減を図る。
- （5）カメムシ類の移動は夜温（最低温度14℃以上）が高くなると活動が活発になる。
- （6）今後、カメムシ類の好適な餌植物であるヒノキ、スギの球果量によっては、7月以降、新成虫の発生が多くなる可能性があるため注意する。

<参考資料>

第1表 予察灯におけるカメムシ類の誘殺状況（4～5月）

ツヤアオカメムシ											
	半旬	垂水市		南さつま市 ¹⁾		いちき串木野市 ²⁾		薩摩川内市 ³⁾		出水市	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月	1	0	4	0	1	0	1	0	0	0	6
	2	0	10	0	2	0	2	0	0	1	2
	3	4	12	1	1	4	16	1	0	5	3
	4	60	71	0	5	1	61	9	1	14	39
	5	4	163	0	3	3	21	3	2	0	12
	6	0	142	0	8	0	65	0	2	1	30
5月	1	1	195	0	16	0	32	3	4	2	153
	2	32	128	6	18	0	62	6	10	9	80
	3	145	86	5	10	0	17	43	4	79	25

チャバネアオカメムシ											
	半旬	垂水市		南さつま市 ¹⁾		いちき串木野市 ²⁾		薩摩川内市 ³⁾		出水市	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	3	0	2	0	0	0	11	1	0	0	0
	4	1	6	0	0	0	0	69	1	0	2
	5	1	17	0	1	0	2	2	3	0	2
	6	0	17	0	1	0	15	0	5	0	7
5月	1	1	22	0	3	0	4	37	100	1	17
	2	14	16	1	5	0	14	7	34	1	17
	3	33	28	1	4	0	2	282	10	29	9

注：1）南さつま市加世田，2）いちき串木野市市来町，3）薩摩川内市東郷町

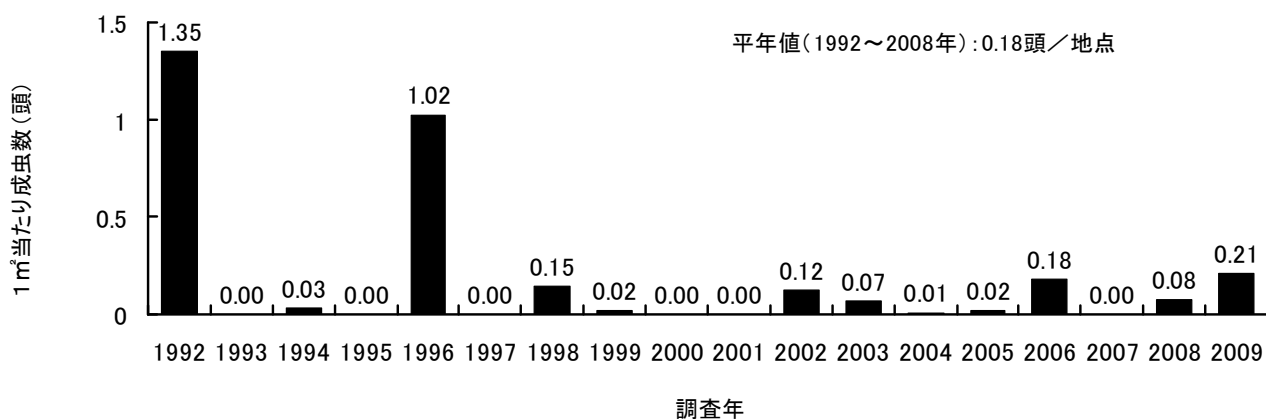


図1 チャバネアオカメムシ越冬量の年次推移

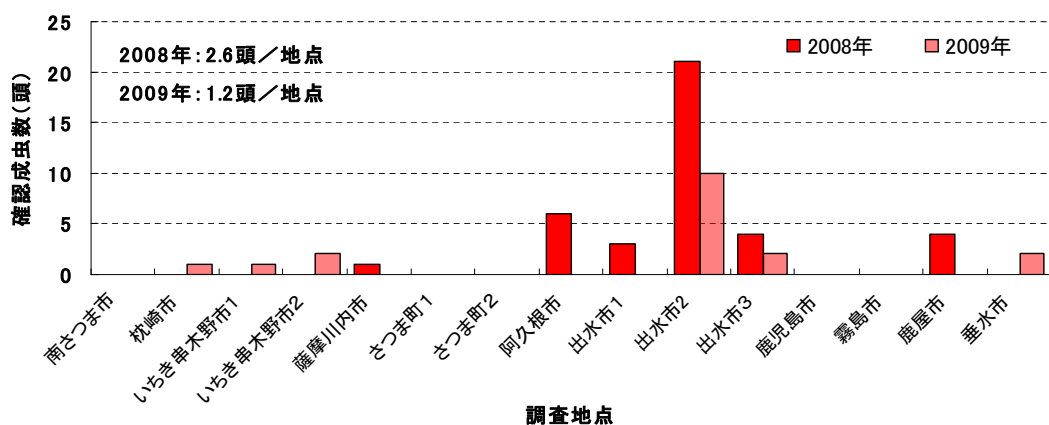


図2 ツヤアオカメムシの越冬状況（平成21年1～2月：イヌマキ樹冠内調査）